

発行

愛媛大学ダイバーシティ推進本部
女性未来育成センター

〒790-8577
愛媛県松山市文京町3番
E-mail hime@stu.ehime-u.ac.jp TEL/FAX 089-927-8602

女性未来育成センター公開シンポジウム2014 「地域の発展と女性の活躍」を開催しました

平成26年12月9日に愛媛大学女性未来育成センター公開シンポジウム2014を開催しました。「地域の発展と女性の活躍」をテーマに掲げ、学内外から約80名が参加しました。

開会の挨拶で柳澤康信学長は「地域の持続的発展に責任を持つ大学として地域の発展を牽引する存在になるには女性の活躍はリンクしてくる重要な課題である」と呼びかけました。

特別講演では宮崎大学副学長・清花アテナ男女共同参画推進室長の伊達紫氏に「九州・沖縄アイランドが取り組むダイバーシティ推進と大学の役割」と題するご講演をいただきました。どのような形から連携ネットワークができ、どのような活動をしているかについて、また、宮崎大学の取組みとしては共通教育に男女共同参画の授業を行っているという具体的なお話がありました。

基調講演では徳島大学理事・副学長岩川雅士氏に「四国5大学連携による男女共同参画推進のこれから」と題して平成26年10月から開始した連携事業についてご講演いただきました。

パネルディスカッションでは愛媛大学副学長・女性未来育成センター長壽卓三教授から趣旨説明がありました。愛媛県男女共同参画会議会長である松山東雲短期大学の桐木陽子教授にコーディネーターを務めていただき、えひめ女性活躍推進協議会会長の伊予銀行人事部長兼女性活躍推進室長の松浦祐一氏と本学法文学部土屋由香教授をパネリストに、伊達氏と岩川氏にコメンテーターになっていただきました。

【パネルディスカッションの様子】

そのためには大学はどうしていく必要があるのかなどの組織課題・地域課題を解決するために非常に有能な視点を、お互いに共有することができるシンポジウムとなりました。



【九州沖縄アイランドの取り組みを紹介する伊達教授】



【岩川理事】

【参加者の声】（一部抜粋）

「九州および四国地域における女性活躍推進ネットワーク作りが進んでいる事に期待が持てました」

「宮崎を中心に九州での連携が上手にとれている様子がうかがえました。また企業・大学双方の様々な立場の方々の意見を拝聴する事ができ、改めて女性の活躍の場としての地域のあり方について考えるいい機会を得ました。」

平成26年12月26日～平成27年1月7日

冬休み学童保育を行いました

教職員のお子さん(小学生)対象の冬休み学童保育を職員会館において実施し、20人のお子さんをお預かりしました。6日間の短い期間でしたが、いよかん収穫実習、けん玉遊び、たこ揚げ、バドミントン大会およびスキー場でのそり遊びとイベント盛りだくさんでした。



若手研究者キャリア支援事業・共同研究プロジェクト支援

女性研究者の研究活動を支援します

「若手研究者キャリア支援事業」では、出産・育児期にも研究活動を中断させることなく、継続するために研究支援員を配置しています。平成27年度前期も小さなお子さんを単身で子育てするなど育児負担度の高い研究者10人に研究支援員を配置します。

【利用者の声】 妊娠中のため体調の悪い時でも、変わりの実験や解析業務を進めていただき、研究が進み助かりました。

【支援員の声】 研究や実験についての打ち合わせをすることで、今まで知らなかったことや気づくことのできなかったことに触れることが多く、自身の知識を増やすことができました。その知識を今後の自身の研究に活かしたいと思いました。

平成26年度連携型事業として実施した「共同研究プロジェクト支援」では、4人の女性研究者に共同研究のための研究費を配分しました。平成27年度も企業や他大学を含む四国地区の研究者の研究交流の活発化を目指し、募集を予定しています。

四国5大学連携女性研究者活躍推進事業が採択されました

(平成26年度～平成28年度)

昨年10月末、徳島大学（代表機関）、香川大学、愛媛大学、高知大学（以上共同実施機関）、鳴門教育大学（連携機関）の四国5大学連携による「女性研究者研究活動支援事業」が、科学技術振興機構（JST）によって採択されました。5大学および連携企業から成るコンソーシアムの下に、女性研究者の管理職・上位職への登用拡大、女性研究者を代表とする共同研究プロジェクトの支援、シンポジウムや交流会などの啓発活動等を開始しています。女性研究者の研究力向上、女性研究者の採用者数・在職者数の増加、離職率の減少、復職支援など、さまざまなエンパワーメントの取組を実施していきます。

女性研究者エンパワーメント講座を開催しました

第1回 「活躍する女性研究者とは」

女性研究者のリーダーシップ養成と研究力向上、そして女性研究者が元気に研究活動を継続していくために、女性研究者エンパワーメント講座を3回のシリーズで予定しております。

平成27年2月6日に開催された第1回は本学大学院理工学研究科の佐藤久子教授がコーディネーターを務め、「活躍する女性研究者とは」をテーマに、



【会場の様子】

日本ロレアル株式会社の貫川節子学術部長、お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科の矢島知子准教授とともに、女性研究者の研究活動の充実を考えていきました。

貫川学術部長から「女性研究者に関するロレアルの取組み」と題するご講演をいただき、「女性研究者の特徴を活かし、様々な協力を得ながらバリアを越えて、女性研究者が生き生きと働くように！」との期待を込めたメッセージをいただきました。

続いて、「活躍する女性研究者とは」をテーマに、交流座談会を行いました。まず、佐藤教授から、自身の研究者としてのこれまでの歩みと共同研究の失敗事例なども交えて、成功する共同研究のための話がありました。

そして、お茶の水女子大学の矢島准教授が、専門である有機化学の研究内容を紹介し、ご自身の平均的な一週間の過ごし方や子供が病気になった時の家族の協力、仕事のやりくり、子供との接し方などをありのままに話され、会場の共感を呼びました。会場の参加者と研究、教育、育児、ワーク・ライフ・バランスおよび家庭生活などについて、大学と企業の立場の違いなどにも触れながら、活発な議論が交わされました。

第2回 「大学での女性リーダーを考える」

平成27年2月17日に開催された第2回は、本学法文学部教授で評議員でもある土屋由香教授がコーディネーターを務め「大学での女性リーダーを考える」をテーマに神戸大学学長補佐・前大学院人間発達環境学研究科長の朴木佳緒留教授、帝塚山大学経済学部長熊谷礼子教授を講師にお迎えして行いました。

朴木教授からはご専門の教育学（男女平等教育、ジェンダー学習論）の視点から、学校教育の中では学年が上がるにつれ女性の校長が少なくなり、「女性はリーダーになってもいいが、ならないのが普通だ」と子供たちが学んでしまうことが問題で、女性のリーダーの姿を目立たせていくことが大切だと話されました。

熊谷教授からは、現代社会では男女問わず様々な状況に置かれており、多様な中でキャリアを考えることが重要で、ワークライフバランスという家庭の状況も個人個人のシビアな選択といえるとのお話がありました。また、ご自身が学部長を務める上で、女性であることを意識することはないが、教育機関であるからこそ、女性リーダーの存在が学生の価値観を変える力となり良かったとのお話があり、組織の風土がリーダーのやりやすさにつながるというお話が印象的でした。

その後の交流座談会では、会場から女性が組織のリーダーになるモチベーションは何か、後に続く女性を増やすためには何をしたらよいかなど様々な質問があり、リーダーシップは地位に立ち経験することで作られるものであり、管理職になるチャンスがあれば断らないで、女性管理職の姿を見せて欲しいとメッセージが送られました。



【交流座談会での意見交換の様子】

サイエンスひめこ活動報告★リケジョ就活カフェ

平成26年12月15日に就活を終えたばかりの「サイエンスひめこ」が、これから就活を迎える理系女子に自身の就活体験やアドバイスを話す「リケジョ就活カフェ」を開催しました。

第1部は、農学部の柿原文香先生と日本食研の向井紀美子氏に働き続けるリケジョの生き様についてご講談いただきました。第2部は、6名の「サイエンスひめこ」がスライドを使って自身の就活のスケジュールや、やっておいて良かったこと、困ったこと、面接で聞かれたことなどを披露しました。その後の座談会では後輩のリケジョからの質問に答えました。「大学院に進学するために準備したことは?」「実際に就活にはどれくらいお金がかかりましたか?」など、ここでしか聞けないリアルな就活を後輩リケジョに伝えることができました。

また、本センターひめこルーム相談室の相談員でキャリアコンサルタントでもある石井真奈先生から、今年度から変更になった就活スケジュールについても聞くことができました。

【参加者の声】（一部抜粋）

「自分で努力量・目標を決め、その期間がそれなりの覚悟で過ごした」というお話を聞き、やりたいことがあるならば、自分も頑張らなくては、と感じ、身が引き締まるものがありました。「なぜその就職先を選んだかや、内定後の話などリアルな話が聞けてとても参考になりました。」

